

全国学習塾協同組合(AJC)

塾・教育総合展IN東京2025講演資料

知識専門職としての学習塾の先生は、一生勉強、一生青春
—超少子化のすすむ中、学習塾が地域の持続的発展のために
果たすべき、社会的役割を考える—

「予習」「授業」「復習」「定着」を活用、「深い理解」を!

「深い理解」とは、学んだことを「自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」!

<参考文献>

(1) 篠ヶ谷圭太著「予習の科学、『深い理解』につなげる家庭学習」

図書文化社 2022年7月24日刊

(2) 篠ヶ谷圭太著「使える! 予習と復習の勉強法—自主学習の心理学—」

ちくま新書、筑摩書房 2024年3月10日刊



東京都立産業貿易センター
浜松町館
2025年1月10日(金)
11:00~11:30

開倫塾
塾長 林明夫

開倫塾日本語学校
理事長・校長

くお読みになりやすいように、QandA で、資料をつくらせていただきます。
ご了承下さいますようお願いいたします>

Q 1 : はじめに一言どうぞ。

A : (1) 開倫塾の林です。本日は、貴重な研修会でお話させていただき、
ありがとうございます。光栄なことと、心から感謝いたします。
(2) 日頃、ご指導いただいている全国学習塾協同組合 (AJC) から、
講演のご依頼を賜りましたので、「超少子化を迎える中で、
学習塾はいかにあるべきか」を、皆様とご一緒に考えさせてい
ただきたく存じます。
(3) メインテーマは「学習塾の先生は、一生勉強、一生青春」です。
サブテーマは「知識専門職としての学習塾の先生の、地域社会における、
社会的役割を考える」です。

Q 2 : 「学習塾の先生は、一生勉強、一生青春」とは何ですか。

A : (1) ①私の大好きなことばの一つです。
②「一生勉強、一生青春」。
これは、栃木県足利市の、私の生まれた家の近くを散歩してお
られた、書家の、相田みつを先生のことばです。
③お話をしたことはありませんでしたが、お姿を拝見したこと
がありますので、大好きなことばとして、大切にさせていただ
いております。
(2) ①もう一つ、私の大好きなことばがあります。
「人生は青天井、一生青天井」です。
②「人生は青天井、一生青天井」とは、
「一人一人の潜在能力は無限大、
生涯にわたり、一人一人の潜在能力は無限大」
③「潜在可能性は、いくらでも伸びる、どんどん伸びる」
と考えます。
(3) ①ただし、「人生は青天井、一生青天井」には、「条件」があ
ります。
②それが、「一生勉強、一生青春」です。
③自分の人生を「人生は青天井、一生青天井」にするには、
「一生勉強」し続けなければならない。
④「一生勉強」し続ければ、「人生は青天井、一生青天井」、
「青春時代が一生続く」。このように考えます。



Q 3 : なぜ、学習塾の先生は、「人生は青天井、一生青天井」

「一生青春、一生青春」なのですか。

A : (1) ①なぜなら、学習塾の先生に、実質的な「定年」はないからです。

②社員として学習塾にご勤務の先生には、形式上の「定年」はあるかもしれませんが。

③しかし、非常勤講師として教えておられる先生は、山ほどいらっしゃいます。

(2) ご自身で学習塾を経営をなさっておられる先生には、「定年」はありません。「生涯現役」です。

(3) <生涯現役の条件>

①セミナー授業、個別授業、オンライン授業を問わず、毎回の授業ごとに、「レッスンプラン（教案）」を作成。

②「授業の準備」を怠りなく行い、「万全の授業（指導）」、毎日、授業後「リフレクション（省察）」を行い、気付いたことを「レッスンプラン」に朱記。

③毎学期、毎年の「レッスンプラン」を「先生としての成長の記録」として大切にし、次の授業に活かす。

④このように、学習塾の先生は「人生は青天井、一生青天井」、「一生勉強」し続ければ、学習塾の先生は「一生青春」です。このように、確信いたします。

○ここまで、皆様は、どうお考えですか。



Q 4 : 「知識専門職としての先生」とは何ですか。

そもそも、学習塾の先生は「知識専門職」なのですか。

A : (1) 現代社会は「知識が基盤になった社会」「知識基盤社会 (Knowledge - Based Society)」です。

(2) この「知識基盤社会」で求められるのが、「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」です。

①「知識・情報・技術」の「知識」とは、「初等教育（小学校）・中等教育（中学・高校）、高等教育（大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院など）」などで学ぶ知識が基盤となります。

②「情報」とは、ICT、最近では、AI/チャット GPTなどで得られる情報。

③「技術」とは「エンジニアリング」はじめ様々な技術。



(3) 「相互作用的に用いる」とは、「学校や大学などで学んだ知識」を基盤として、ICT/AI/チャット GPTなどを組み合わせて、企業や団体・社会、さらには、一人一人の課題解決に役立てる事です。

(4) ①これが、現代社会の特色の第1です。

②ちなみに、現代社会の特色の第2は「グローバル社会」、
そこで求められるのは「多様な集団で交流する能力」です。

③現代社会の特色の第3は「課題山積社会」。

そこで求められるのは「自律的に活動する能力」です。

(5) ①このような意味での「知識」の基本を「小学生、中学生、高校生」に伝授するのが「学習塾の先生」です。

②ですから、「学習塾の先生」は、「知識基盤社会」の基本を伝授する「知識専門職」と考えます。

③「知識専門職としての学習塾の先生」としての「自覚」と「誇り」を持つことが大切と考えます。



Q5：学習塾の塾生の大半が高校卒業後に進学する「高等教育機関」である、「大学」「短期大学」「専門学校」「専修学校」「大学院」等は、今、どうなっていると認識していますか。

A：(1)「高等教育機関」としての「教育の質」を担保（確保）するために、極めて厳格な「評価」が、文部科学省によってなされているようです。

(2) たとえば、多くの大学では、

①1学期（1セメスター）は、90分の授業が15回行われ、

②毎回、テキストや教材の予習の他、事前にオンラインで配信される資料を予習・復習することが求められています。

○1回90分の授業につき4.5時間の予習・復習。

③授業後は授業レポートをオンラインで提出、

④オンラインやリアルで質問を受け付け、

⑤15回の授業終了後、単位認定試験、

⑥及第点に満たない場合には再試験ないし再履修、場合によっては、留年、退学となるようです。

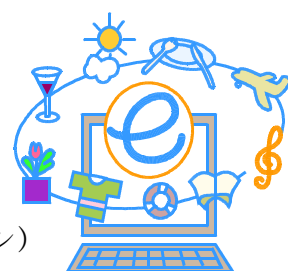
(3) ①大学や大学院の授業の多くは、アクティブラーニング（反転授業）が導入され、従来型の一方的にテキストを説明するような授業は少なくなっているようです。「ゼミ」もさんかです。

②では、どこでテキストを理解するのかといえば、授業の前の「予習」で行うしかありません。



- ③熱心な先生の授業では、テキストに沿った動画やオンライン教材が準備されています。
- ④アクティブラーニングを取り入れた、ディスカッション型の授業では、先生は、テキストや課題として事前に配信した資料は「予習」を行ったことを前提に、議論が進められます。
- ⑤授業後は、一定期間後に、「復習」。
授業レポート（例えば 1000 文字以上）の提出が、毎回、求められます。
- ⑥ここで身に着くのが、「予習」「授業」「復習」によって、授業の大切なポイントについて「深い理解」を得ることです。
- ⑦「深い理解」とは「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ことです。

(4) ①コロナ禍によるズーム授業で、オンライン授業だけでなく、オンラインによる事前課題や映像の配信、オンラインによる質疑応答、オンラインによる授業レポート提出や課題報告(プレゼン)などが、一気に加速。



- ②アクティブラーニングに、コロナ禍が加わり、大学はじめ「高等機関の教育・研究方法」が、「一変」しました。
- ③「テキストや映像などを用い予習する力」、「授業で議論する力」「復習し、深い理解を得、授業レポートを毎回執筆、課題発表ができる力」

○アクティブラーニングの「学問的中心」は「大学図書館」です。

「大学図書館」に慣れ親しみ、最大活用することが、充実した大学生活を送る秘訣と考えます。



- (5) ①この「教育・研究方法」は、大学だけでなく、短期大学、専門学校、専修学校にも、急速に広がっています。
- ②大学院は、大学以上に、この「教育・研究方法」が深まっています。
- ③現代の教育の最大の課題の一つは、大学はじめ、高等教育機関への進学率が上昇する中、このような「高等教育機関の教育・研究方法」の大変革に耐えられる「基礎学力」を、どう、「初等教育機関」「中等教育機関」で「育成」するかです。



Q 6 : 大分、難しいことを、お話ですが、この議論は、学習塾とどのような関係があるのですか。

もっとわかりやすく説明してください。

A : (1) ①従来、「実業高校」と呼ばれた高校の多くが、高校再編で統廃合が進み、総合高校や普通科高校になり、最近では「専門高校」と呼ばれているようです。

②その「専門高校」の多くでは、4年制大学、または、専門学校進学希望者が急増、就職希望者が減少しております。

③このような状況の中、学習塾で学ぶ塾生の大半は、「進学校」に進学し「大学」に進学するか、「専門高校」に進学し「大学」または専門学校に進学」すると思われま

○「大学3年に編入可能な専門学校」も増えてきました。

○大学を卒業後、大学院修士課程（博士前期課程）に進学する学生も急増すると考えられます。

(2) ①学習塾では、塾生のほぼ全員が、高校卒業後、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院など、高等教育機関に進学しますので、かなり厳格な評価の下に、高等教育機関での「教育・研究」活動を行うことを常に意識し、使命感をもって、毎日、ご指導していただきたいということです。

②「大学などでの教育・研究に耐えられる基礎学力を小・中・高から育み育てる」

③そこで、今まで通り、「学校の補習」、「学校成績アップ」、「3大検定合格」、「第一志望校合格」に加え、これからは、「大学などへの進学後の教育・研究に耐えられる基礎力」をたとえ少しずつでもお育ていただきたいということです。

(3) <具体的には>

①「なぜこのことは、こうなのか」など、「全教科、各学年の、重要学習項目についての本質的理解」が最重要。

②「自覚をもって学ぶこと」

③「自分から進んで学ぶこと」

④「主体的に学ぶこと」

⑤「効果の上がる勉強の仕方を身に着けていること」

⑥「予習の仕方」

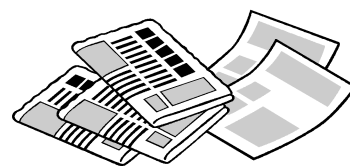
⑦「授業の受け方」

⑧「復習の仕方」

⑨「レポートの書き方」



- ⑩「自学自習の仕方」
- ⑪「定期テストの受け方」
- ⑫「3大検定試験の合格の仕方」
- ⑬「入学試験の合格の仕方」
- ⑭「読解力の身に着け方」
- ⑮「辞書・新聞・読書・図書館（学校図書館・公共図書館）に慣れ親しむ方法」



○小・中・高校時代にこれらに慣れ親しんでいないと、大学入学後、急に、辞書を引き新聞を読み、読書をし、図書館に通うことは、難しいと思われます。



Q 7 : 「地域社会における学習塾の役割」とは何ですか。

A : (1) ①例えば、2024年1月から6月までの日本の出生数は、厚生労働省の9月2日発表、人口動態統計（速報値）によれば、前年5.75%、2万978名減の、「35万74名」です。

②このまま推移すると、2024年の年間の出生数は、70万人を割る可能性もあります。

(2) ①このような、超少子化社会に備え、政府は、技能実習生制度を廃止。

②2024年度から5か年かけ、育成就労制度、特定技能制度を導入、特定技能2号取得者には、家族帯同、期間無限定、転職可。

③他国の言い方を用いれば「移民政策」を導入、30年かけ、人口の10%を外国出身者とする計画のようです。

(3) ①しかし、数十年後に、総人口の1割を外国出身者にしても、日本の人口は減少し続け、超人手不足の解消にはなりません。

②一人一人が、日本の社会の中で重要な役割を果たすことだけは明確です。

③外国出身者への日本語教育や「やさしい日本語」を用いての学習指導も今後の取り組み課題です。

(4) ①難関大学、有名大学に進学をし、中央官庁や大企業で、日本を代表し、世界で活躍する人材を育てることも重要です。

②これに加えて、「専門高校」とよばれる高校に進学し、卒業後はそのまま地元就職、又は、「大学・専門学校」に進学、

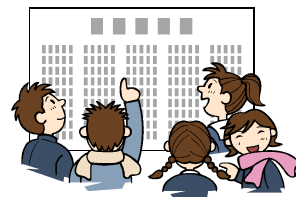
③卒業後は「地域を支える公官庁、中小企業、医療・介護施設」など、地元就職する方々を、しっかり教育することも重要。

(5) ①余り無理はしなくてもよいとは思いますが、各学習塾では、

「小学部を卒業後は中学部に全員継続」、「中学部卒業後は高校部に全員継続」させ、「高校3年生の3月31日まで、全員在籍」させる。



②そして、「大学、短期大学、専門学校、専修学校などで必要な教科について、高校教科書レベルでOKですから、大切な学習項目について、「深い理解」、「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」まで、ご指導賜りたく希望します。



③大学や専門学校から送られてくる、大量の入学前学習用テキストや教材の自学自習を支援

(6) ①今までにも増して「私立中入試」「公立中高一貫校入試」「高校入試」や「大学入試」においても、トップ校や難関校にしっかり受験指導して合格させる。

②同時に、「地元の専門高校（旧実業高校）」や「地元の大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院」等「地元人材育成高校・地元人材育成大学など」にこそ、しっかりご指導し、進学させる。

○「地元人材育成校」を大切に。

③たとえば、少人数でも、「地域を支える地元人材を」、一人一人、しっかり教育することこそが、「超少子化がすすむ中、地域の持続的発展のために果たすべき、学習塾の社会的役割」と確信いたします。



Q 8 : 最後に一言どうぞ。

A : 僭越ではありますが、先生方がお読みになれば、必ず、お役に立つと思われる本を何冊かご紹介させていただきます。

(1) 一冊目は、ジェイムズ・ヒルトン作「チップス先生、さようなら

(Good-Bye, Mr.Chips)」新潮文庫、新潮社、2016年1月26日刊です。

(2) 二冊目は、内村鑑三作「後世への最大遺物・デンマルク国の話」

岩波文庫、岩波書店 1916年10月10日刊です。

(3) 三冊目は、同じく内村鑑三作「代表的日本人」岩波文庫、

岩波書店、1995年7月17日刊です。

○二冊目の作品は、「人は、死んだあと、後世（後の世）に、何が遺せるか。

お金（奨学金）か、仕事か、著作（作品）か、教育か、はたまた、生き方か」と、「人生の本質」に迫ります。

○三冊目の作品は、では、人は一体どのように生きてきたのか、

日本を代表する、5名の日本人のご紹介です。

○一冊目の作品は、先生としての生き方を示したものです。

「魯迅」作の「藤野先生」も、学習塾の先生方の生き方として、参考になります。

○是非、ご一読ください。そして、御一緒に、「一生勉強・一生青春」

でがんばりましょう！

御清聴ありがとうございました。心から感謝申し上げます

御質問、御批判、コメントなどありましたら、是非、お教えてください。

— 2024年11月7日記一